

平成30年3月26日(月)
午前10時30分～ 奈良県庁第一応接室

第16回奈良県税制調査会資料(3)

■ 産業廃棄物税の状況について



奈良県

産業廃棄物税の状況について

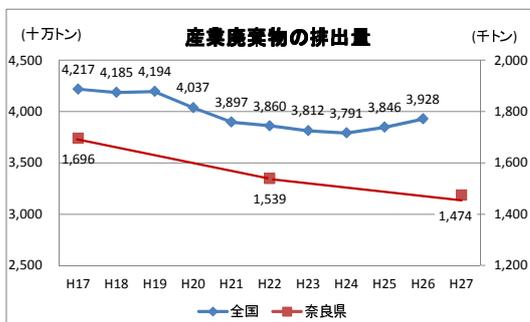
1. 産業廃棄物の推移

(表 1)

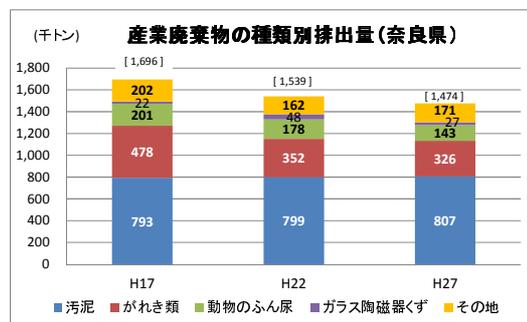
	H17		H22			H27		
	実績	構成比	実績	構成比	H17 比	実績	構成比	H17 比
① 排出量	1696 トン	(100.0%)	1539 トン	(100.0%)	90.7%	1474 トン	(100.0%)	86.9%
② 再生利用量	822 トン	(48.5%)	743 トン	(48.3%)	90.4%	621 トン	(42.1%)	75.5%
③ 減量化量	775 トン	(45.7%)	722 トン	(46.9%)	93.2%	781 トン	(53.0%)	100.8%
④ 最終処分量 ①-(②+③)	99 トン	(5.8%)	74 トン	(4.8%)	74.7%	72 トン	(4.9%)	72.7%

(1) 排出量

廃棄物の排出量は経済活動が好調なときは増加する傾向がある。近年は景気が上昇傾向にあるが、奈良県では平成 17 年度から平成 27 年度にかけて廃棄物の排出量は減少傾向にある（排出量は全都道府県で少ない方から 3 番目）。なお、種類別では、下水道普及率の増加により汚泥排出量が増加し、その他の品目は減少している（図 2）。



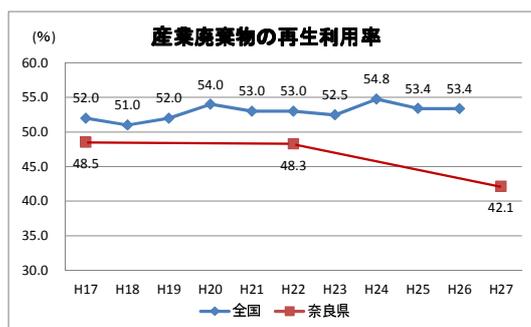
(図 1)



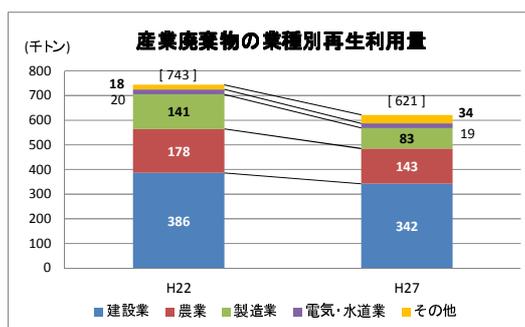
(図 2)

(2) 再生利用率

汚泥は再生利用率が他の品目に比べて低い品目であり、全排出量に占める汚泥の割合が増加していることから、産業廃棄物全体の再生利用率が低下している（図 3）。



(図 3)



(図 4)

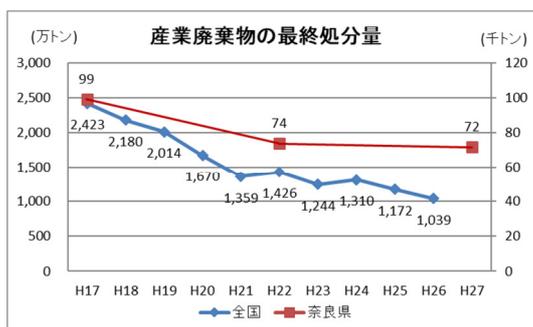
(3) 減量化量

減量化量は焼却等により減量できた量を示している。排出量から再生利用量と最終処分量を除いたものである。H27年の減量化量は59トン増(H22年比)となっている(表1)。

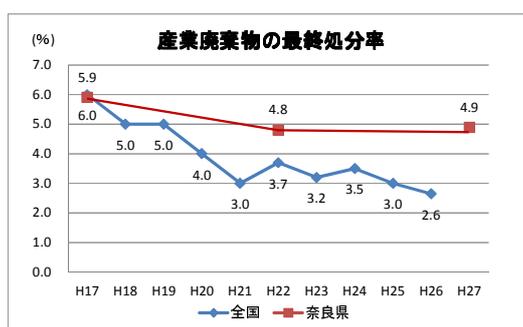
(4) 最終処分量

全体の排出量が減少しているため、最終処分量も減少している(図5)。

平成22年度から平成27年度にかけて、再生利用が難しい汚泥の全排出量に占める割合が増加しているため、最終処分量(全排出量に対する最終処分量の割合)は、ほぼ横ばいである(図6)。



(図5)



(図6)

(5) 適正処理

不法投棄・不法焼却については、平成19年度をピークに減少してきている(表2)。

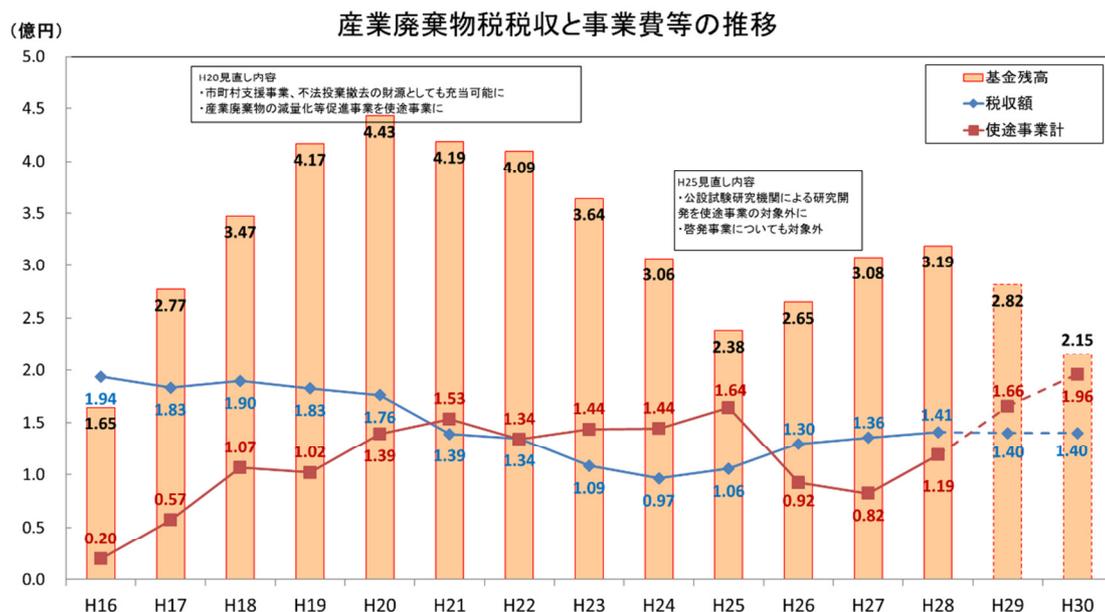
(表2)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
不法投棄	24	14	29	14	19	6	18	8	19	26	16
不法焼却	108	176	143	110	81	67	46	40	20	28	23
合計	132	190	172	124	100	73	64	48	39	54	39

※県景観・環境総合センター、奈良市による認知件数(産業廃棄物)

2. 税収及び使途事業費の状況（図7）

税 収：平成24年度以降は景気が回復傾向で、税収は増加傾向にある。
 使途事業費：前回（平成25年度）の見直しで、県直轄の研究開発や植栽等の一般的な啓発事業などを使途事業から除外し、平成26年度から使途事業費が1億円を下回ったが、廃棄物の適正処理の推進を図るため、平成28年度に景観・環境総合センターのパトロール体制の強化等を行い、使途事業費が増加した。



(図7)

前回の見直し時に、奈良県税制調査会（H25.11.14）より「平成21年度以降は、使途事業費が税収を上回り、これを賄うために基金積立金の一部を充当している状況である」。このため、「使途事業については、その事業費が今後5年間で税収総額と基金積立金を上回ることがないように見直し」との答申があった。

見直し後の平成26～30年度における使途事業費は7.14億円（徴税费含む）と見込んでおり、同期間の税収総額見込み6.91億円（基金運用益含む）と平成25年度末の基金残高2.38億円の合計額9.29億円を上回らないよう答申に沿って使途事業の見直しを行い、税収総額に見合った事業執行を行った。

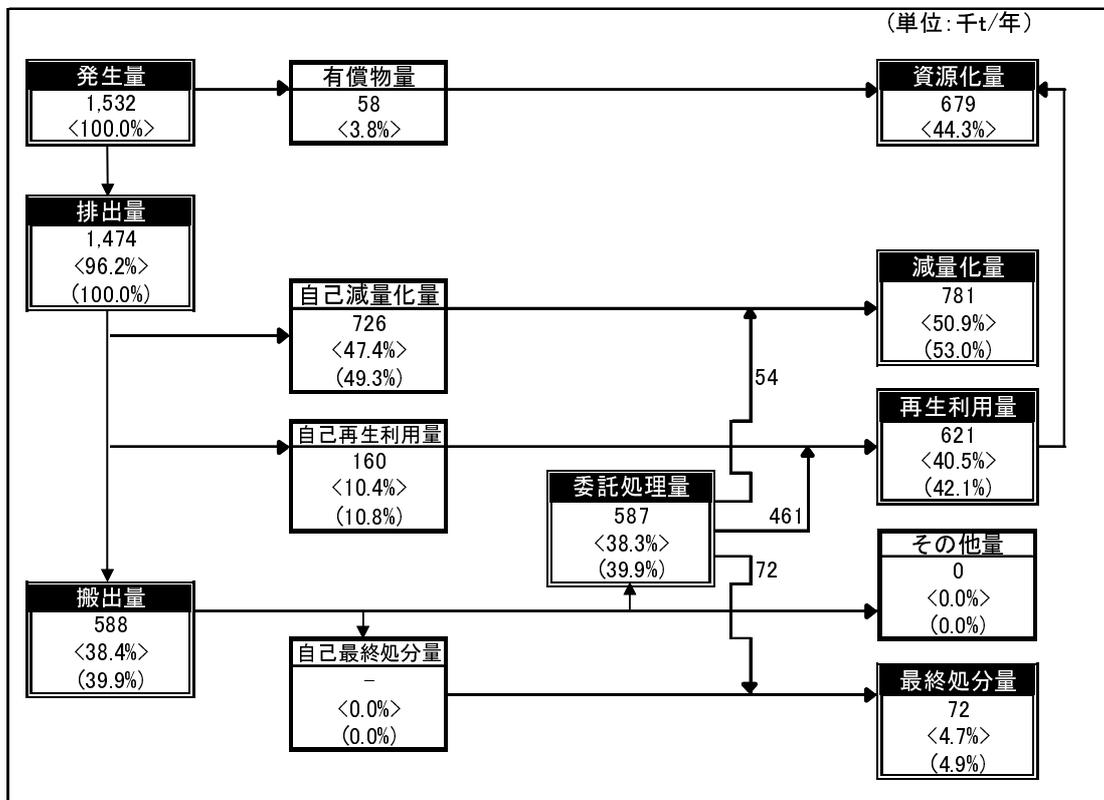
3. 来年度の検討の方向性

平成16年度より産業廃棄物税が導入され、2度の見直しを経て効果的と考えられる使途事業に重点化して実施している。

来年度の産業廃棄物税の検討に向けて、使途事業の効果検証を行いつつ、今後の税収や基金残高を踏まえ、高い効果が見込まれる事業の実施について検討を行っていく。

(資料)

県内の産業廃棄物フロー



- 注1) <>の数値は発生量に対する割合、()内の数値は排出量に対する割合を示している。
注2) 各項目の数値は、四捨五入して値を使用しているため、総数と個々の合計は一致しない場合がある。
注3) 「-」表示は該当値がないものであり、「0」表示は500トン未満であることを示している。